

## 2012 年度薬膳の旅

連載 1 回目 (全 3 回)

## ～「各国の薬膳」を勉強しながら

## 「中国の世界文化遺産」を巡る旅～

2012 年 10 月 19 日から 26 日 (7 泊 8 日)にかけて行われた今年の「薬膳の旅」。  
今号と 39 号、40 号の 3 回に分けて、旅の感想を参加者の皆様よりお送りいたします。  
今回は主に国際美食養生「長寿杯」料理コンテスト見学の様子です。



## 国際美食養生「長寿杯」料理コンテストに参加して 16 期中医薬膳師コース卒業生 岡野定 玲子

10 月 19 日(金)成田空港 87 番搭乗ゲート前で全員がそろい名前だけの簡単な自己紹介をし合いました。簡単なながらも劉先生のお話のとおり、今回の旅を無事で楽しい旅にしようと全員の顔が話っていました。

私は今年9月に中医薬膳師コースを卒業したばかりで、仲間が誰もいない。さらに今、両国間が何かと懸念されている時期の中国ということで、やや不安もありましたが、劉先生を初め、中国は何度もという方々で安心し、初めての中国旅行に期待がふくらみました。

.....

1時半、上海空港着。私たちをにこやかに迎えてくれたのは世界中華美食薬膳研究会の張文彦会長。とても喜んで迎えて下さっている様子にびっくりしました。また、先生方はそれほど交流を深めていらしたのだということにも今さらながら驚きました。

私たちは韓国の参加者の方と一緒にバスで、会場である如皋市に向かいました。途中下車のパーキングでは、先生が生のお棗を買ってきてバスの中で皆さんに配ってくれました。私たちも韓国の方も喜んで、珍しがって食べました。生の棗は見るのも食べるのも初めてで、りんごのような爽やかな酸味があり美味しかったです。

4時間あまりかかり会場の永林国際大酒店に到着。素晴らしく豪華な大きなホテル。この日は夕食後、各国の先生方の講演会がありました。劉先生が日本語で通訳して下さいましたので助かりました。食物の大切なことや効果があることなど様々ことを多方面から公演され、興味深く聞くことができました。

選手としてコンテストに参加される方には次々と連絡があり、慣れない場所で料理を作り、そして審査されるのは大変なことだろうなあと思いました。でも私は、今、料理研究家の先生方やプロの方々の中に混じっている。中国にいる。と、思うと疲れていても興奮で体の中から元気があふれ、ホテルの部屋で、一人で飛び跳ねていました。

.....

10月20日(土)午前中、オープニングセレモニー。各国の先生方の紹介とあいさつがありました。我らの鷺見先生のごあいさつは素晴らしかったです。特に最後にお話された言葉に参加者のみんなから大きな拍手がありました。それは、

最近中国と日本は関係がぎくしゃくしていますが、政治の問題は国同士でよく考えてもらって、私達は長い間培った民間の友好関係を崩すことなくよい関係でありたいと思っています。

と、素敵なおあいさつでした。会場の参加者全員が思っていたこと。でも、なかなか口に出せず、胸にしまっていたことだったので。感動しました。

その後、選手のみなさんが作っているところを、劉先生の案内で見ることができました。審査の様子も、入り口から少しだけ見られました。そして、審査が終わった順に会場に料理の作品が並べられました。たくさんの見事な料理には圧倒されました。それぞれの国の食材 (5 ページへ続く)

会場のある「世界長寿の郷」  
江蘇省如皋市

会場の様子



鷺見先生のごあいさつ